

# 令和4年度学校関係者評価

吉川中学校

スローガン

# 笑顔で会える学校

ともに育つ地域・校種間連携

双方向な家庭とのかかわり

めざす子ども像

- 【自律】自ら考え、判断し、行動する
- 【思いやり】まわりの人を大切にする
- 【柔軟】変化に柔軟に対応する

教育目標

自らの道を、自信を持って  
切り拓くことのできる生徒の育成

学びあう学校

- ・多様な学びを促進する授業づくり
- ・基礎学力定着のためのシステム作り

高めあう学校

- ・一致した方針のもとでのきめ細やかな指導
- ・生徒をエンパワーし、いじめを許さない

地域に愛され、前向きで安心できる学校

- ・安全で規律ある雰囲気づくり
- ・学ぶ意欲を引き出す学習環境
- ・危機管理の徹底（報告・連絡・相談・点検の徹底）

# 令和4年度 吉川中学校の教育方針 及び 主な取組み

## 1 スローガン 「笑顔で会える学校」

- 2 めざす子ども像
- 【自律】 自ら考え、判断し、行動する
  - 【思いやり】 まわりの人を大切にする
  - 【柔軟】 変化に柔軟に対応する

## 3 教育目標

自らの道を、自信を持って切り拓くことのできる生徒の育成

## 4 主な取組み

### (1) 学びあう学校

#### 1. 多様な学びを促進する授業づくり

①「授業づくり」に対する教職員の意識や気運を高める。

・スクールエンパワーメント推進事業に取り組む

＊主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究を進める。

＊ユニバーサルデザインを意識した授業の研究を進める。

②学力向上に向け、以下のことに取り組む。

・校内研究テーマを設定し、全教科において積極的に研究授業に取り組むなど授業力の向上に努め、生徒の学力向上や進路の幅の拡大を図る(上記スクールエンパワーメント推進事業をうまく活用する)。

・一人一台タブレットを積極的に活用する。情報処理能力の育成にとどまらず、情報活用能力の育成を図る。

・生徒による授業アンケートを実施する。

・府、全国、諸団体等や町の読書感想文等のコンクールに積極的に応募・参加する。

③支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。

・個別の指導計画を保護者とともに作成し、保護者との意思疎通を十分に図る。

・一人ひとりの進路選択を保障することを大切に、支援学級での指導方法や通常学級での指導方法について、全教員で研究する。

・小中、中高連携を積極的に推進するため、進路先や校区内の小学校等に訪問を行う。

④より豊かな教育の推進のための小中一貫教育の研究を推進する。

⑤新学習指導要領の円滑な実施に向けた年間指導計画を作成、実施していく。

⑥目標に準拠した評価の在り方を継続的に研究し、生徒の意欲を高める指導と評価の一体化を進める。

#### 2. 基礎学力定着のためのシステム

①指導方法の工夫改善加配(数学1、英語1)を最大限活用し、学力向上のために、数学と英語科においては、習熟度別指導やティームティーチング(TT)を生徒の実態に応じて効果的に実施する。

②自学自習力の向上のため、学生・地域人材等ボランティアを活用した放課後授業(まなび舎)を定期テスト前などに行う。

③家庭への積極的な情報提供を行い、家庭と連携を図った基礎学力の定着をめざす。

### (2) 高めあう学校

#### 1. 一致した方針のもとでのきめ細やかな指導

①肯定的な子ども観を持ち、学級集団の状況を把握し、生徒の行動の背景を知ることが大切で指導にあたる。

②生徒に関する情報を共有し、取組みのためのコーディネート機能を充実させる。

③生徒に「意味のあるルール」を徹底する。

④不登校を減らし、いじめの早期発見、早期解決を目指す。

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、専門家や外部関係団体との連携を進める。
- ・学校生活・いじめ等アンケートを学期に1回実施する。
- ・生徒指導主事と児童生徒コーディネーターは常に連携し、そして各学年団と連携し、学年ごとの課題や学校の課題を整理し、具体策を、管理職、首席、学年生徒指導担当、学級担任、学年団など、学校総体で取り組み、早期解決を図る。

## 2. 生徒をエンパワーし、いじめを許さない集団づくり

①いじめを許さない集団づくりをめざす。

- ・道徳、総合的な学習の時間、学活などを通して、体験的取組みを創造するとともに、各種行事で集団づくりをめざす。

②部活動指導においては、クラブ活動運営方針のもと、明確な目標を設定し、指導を行う。

③生徒会等、生徒代表者と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて生徒や保護者、地域と連携して取組みを進める。

④生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。

- ・3年:修学旅行、進路相談 2年:職場体験学習、宿泊学習 1年:福祉体験、校外学習
- ・小中交流、保幼中交流など異校種間交流
- ・ふれあいのつどい
- ・放課後まなび舎(定期テスト前)

## (3) 地域に愛され、前向きで安心できる学校

### 1. 安全で規律ある雰囲気づくり

①「とよの授業スタンダード」をもとに、学習規律(集団で学習するためのルールやマナー)を大切に授業づくりに努める。

②学校のルールについて、年度当初に生徒と確認し、教職員で足並みをそろえて指導にあたる。また、常に生徒の現状や時代の流れに則したルールになっているかなど、生徒とともに点検し、必要に応じて修正も行っていく。

③PTA、学校協議会、地域の諸会議時に、学校のルールや現状の情報発信を行い、保護者や地域の方々にも協力を願う。

④防犯教室や避難訓練など、複数回実施し、非常時の対応力育成に取り組む。

### 2. 学ぶ意欲を引き出す学習環境

①掲示物や作品展示など、生徒の意欲を引き出す工夫を絶えず行う。

②支援が必要な生徒など、特別なニーズのある生徒に対しては、保護者や本人の要望等を十分に受け止めての環境整備を行う。

③校内の環境を常に清潔かつ安全な状態にする

### 3. 危機管理の徹底(報告・連絡・相談・点検の徹底)。

①コンプライアンスの徹底を図る

②学校事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。

③学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。

④学校文書、諸経費等は、複数の担当で管理・点検を行い、PTAや教育委員会の監査を受ける。

### 4. 誇りと責任感に根ざす学校風土の醸成

前向きで活動的な学校文化を支えるために、教職員間で学校に対する誇りと取組みに対する責任感、使命感を共有していくことを大切にしていく。

## 5. 可能性をのばす幅広い教育活動

学校行事や部活動、委員会活動や地域とも連携した取組みなどにも注力し、生徒の可能性を伸ばしていく。

### (4) とともに育つ地域・校種間連携

#### 1. 多様な資源を生かした地域連携と地域に信頼される学校づくり

- ①地域等のボランティアと PTA の支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。
- ②公開授業を実施する。(10月27日、28日実施予定)
- ③学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒の健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。

#### 2. 明確な目的を持った校種間連携

令和8年度の義務教育学校開校を見据え、子どもの育ちという視点や学びの連続性といった視点からの小学校との連携がたいへん重要となる。小中連携を積極的に進めていく。

### (5) 双方向な家庭とのかかわり

#### 1. 家庭とのパートナーシップの推進

家庭とのパートナーシップを推進するためには、次のようなことを大切にしていく。

- 生徒の家庭背景をできるだけ把握することに努める
- 保護者の生活や子どもへの思いを知り、信頼関係をつくっていく
- 保護者の抱えるしんどさや、悩みに耳を傾ける
- 保護者とともに子どもを育てるという姿勢を持つ

#### 2. 学習習慣の形成を促す働きかけ

学校だよりや学級・学年通信などの活用や、家庭訪問や懇談の機会を生かし、家庭での学習習慣形成に向けては、保護者の協力をお願いしていく。

また、携帯電話やスマホなどの使い方は、多くの生徒の生活習慣に影響があるので、その使い方についても保護者とともに考えていく。生徒会を中心に、生徒たち自身にも考えさせていく。

### 次ページからの「評価表」について

- P2からの「令和4年度 吉川中学校の教育方針 及び 主な取組み」の「4 主な取組み」の項目ごとに「計画」「取組」「評価」「学校協議会委員評価」について記しています。
- 「計画」並びに「取組」については、今年度末において評価の対象とし、その評価を次年度以降の取組みに生かしていくものに絞って記載しています。その「計画」「取組」について学校として評価し、学校協議会委員にも評価をいただいています。
- 「評価」は学校による自己評価です。11月実施の「学校教育自己診断アンケート」の結果をもとに、「生徒の評価」、「保護者の評価」「総括的」の3つに分けて記しています。
- 「評価」における数値(アンケートの結果数値)は、(R2年度、R3年度、R4年度)の順で記しており、どの項目も毎年肯定的評価(A+B)がほぼ90%以上を占めるので、ここでは肯定(A)評価の割合を載せています。学校教育自己診断アンケートは、4段階(A:当てはまる、B:やや当てはまる、C:あまり当てはまらない、D:当てはまらない)で回答いただいています。
- 「学校協議会委員評価」を学校関係者評価としています。「○」は高評価、「●」は今後の課題、「☆」については提言いただいた内容です。

# 1 学びあう学校

計 画	<p><b>1. 多様な学びを促進する授業づくり</b></p> <p>①スクールエンパワーメント推進事業に取り組み、主体的・対話的で深い学びを育み、またユニバーサルデザインを意識した授業づくりを研究し、進める（わかる授業の創造）。</p> <p>②支援学級、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。</p> <p>③より豊かな教育の推進のために小中一貫教育の研究を推進する。</p> <p><b>2. 基礎学力の定着のためのシステム</b></p> <p>①学力向上に努めるために配置された加配教員（数1，英1）を最大限活用し、数学科と英語科において少人数指導やチームティーチング（TT）による指導を生徒の実態に応じて効果的に実施する。</p> <p>②自学自習力の向上のため、放課後授業（まなび舎）を定期テスト前に行う。また、家庭と連携を図った基礎学力の定着をめざす。</p>
取 組	<p><b>1の①</b></p> <p>今年度も大阪府教育庁の「スクールエンパワーメント（SE）推進事業」を受け、研究を進めた。定期的（原則毎週火曜日の5時間目）に校内研修推進委員会（管理職、首席、児童生徒支援コーディネーター、本事業担当者、校内研修担当者）の会議を持ち、今年度の取組みを計画し、進めていった。今年度は生徒につけたい力として、「相手に自分の考え・思いが伝わるように表現する力」「構成を工夫して分かりやすく表現する力」を掲げ、今年度は全教員を6グループの小グループに分け、各グループごとにつけたい力をより焦点化するための「こだわりポイント」を設定し、わかる授業の創造に向けて研究を進めた。相互参観週間を年間に3回、校内研究授業を6回実施することができた。教科の枠を越えた研究となり、前向きな雰囲気での授業改善に向けた取組みとなった。</p> <p><b>1の②</b></p> <p>今年度は3学級での支援学級となった。保護者との連携を大切に考え、できるだけ連絡を密にし、保護者の方の思いも大事にした。教職員間でも情報交換を密にし、全教職員で支援にあたる体制を意識し進めてきた。定期的（原則毎週金曜日の3時間目）に担当者会議を開き、情報交換と支援の方策を検討した。今年度は、次年度からの大阪府の支援教育のあり方の変更に伴い、保護者への説明会を実施したり、個々の保護者との面談を実施したりして、次年度からの学びの場の検討にも時間を費やした。</p> <p><b>1の③</b></p> <p>小中のスムーズな連結に向け、新1年生対象の体験入学を実施したり、本校教員が小学校に出向き、小学校での生活の様子を見学に行ったりするなど、入学に向けてのハードルを低くすることに努めた。体験入学では生徒会役員が中学校生活を分かりやすく説明し、楽しく希望の持てる説明会となるよう工夫を凝らした。体験授業を担当した教員も、中学校らしい専門性を感じさせる、子どもたちの興味の湧く授業を行った。また、吉中校区の教職員全員での研修会を2回開くことができた。令和8年度開校の義務教育学校を見据えた取組みもスタートさせた。</p> <p><b>2の①</b></p> <p>今年度は数学（1名）と英語（1名）で加配教員が配置された。数学では主に習熟度別による指導を、英語ではTT授業（2人体制での授業）を実施し、きめ細やかな指導に注力した。その成果もあり、大阪府チャレンジテストなどでも好成績であった。府のチャレンジテストでは、数学においては平均よりも10ポイントも上回る結果であった。しかし、本校の大きな課題であるが、どの教科も生徒の学力の2極化の傾向があり、特に英語などはその2極化に対応した授業づくりで教員も苦慮している現状がある。次年度に向けての課題である。</p> <p><b>2の②</b></p> <p>今年度も放課後授業（まなび舎）も定期考査前には実施した。加えて、教科によってはテスト前の補充学習等も行い、生徒が学びに向かう環境づくり努めた。家庭の協力も大きく、家庭での学習により基礎学力の定着が進んだ。</p>
	<p>【生徒の評価】 ※（R2年度、R3年度、R4年度）の肯定（A）評価の割合</p> <p>R4年度学校教育自己診断の学びに関する項目の結果によると、「好きな授業がある」（66.7%73.8% <b>62.2%</b>）「授業をわかりやすくしようとしている」（70.3% 69.5% <b>62.2%</b>）「少人数授業は分か</p>

<p>評 価</p>	<p>りやすい」(75.9% 69.5% <b>65.8%</b>)と、過去2年間に比べやや下がっている。この3項目を細かく見ると、実は1年生が他学年よりも数パーセント低いのである。学力的にも課題の多い学年であるが、学習意欲もやや低いように感じる。学年の取組みとして、3年生の授業を生徒に見学させたり、授業づくりでもタブレットを活用したりするなど工夫を凝らして課題克服に取り組んでいる。学年が上がるにつれ、その成果が出てほしいと期待している。「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」(57.7% 59.6% <b>59.9%</b>)は、概ね良好な結果である。</p> <p>【保護者の評価】</p> <p>「支援教育の充実に努めている」(37.8% 40.4% <b>40.5%</b>)「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」(36.7% 44.3% <b>43.4</b>)「放課後まなび舎教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」(37.0% 36.3% <b>42.1%</b>)「読書活動に力を入れている」(30.8% 38.2% <b>42.6%</b>)であった。保護者の方からの評価は上昇しているものが多い。学校からの取組みを発信している成果も出ているととらえたい。しかし、やはり細かく見ると、1年生の保護者の評価は低めなのである。生徒の評価でも記載したように、今後、授業づくりや学年の意欲向上に向けた取組みを工夫し、同時に保護者にも協力を求めていきたい。</p> <p>【総合的】</p> <p>授業においては、一人一台タブレットを活用した授業も増え、大型テレビやプロジェクターなどを活用し、わかりやすく、生徒の興味関心を高める授業づくりは進んできていると考える。形だけを見れば、時代の流れに乗った新しい授業スタイルを取り入れたものになっているが、その中でいかに生徒の思考をはたらかせる授業になっているかという点では課題が多いと考える。生徒が思考を働かせ、授業の中で「わかった」と自らつかみとる授業づくりの追及が、今後さらに必要と考える。SE事業も活用しながら、次年度はもう一步踏み込んだ授業づくり、授業研究を全教職員で進めたいと考える。</p> <p>支援教育については、今年度は来年度に向けて、学びの場の見直しを含め、大幅な見直しを行った。そのため、次年度は支援学級在籍生徒の数が今年度の3分の1に減り、今年度支援学級に在籍していた生徒の多くが通常学級、そして通級指導に学びの場を移すことになる。支援学級在籍生徒の学びを今まで以上に行き届いたものにし、通常学級での学びをより充実したものにすることが、次年度は大きな課題である。ユニバーサルデザインの授業づくりを意識し、全教職員できめ細やかな支援ができるよう体制を整えていきたい。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 学年ごとの学力や課題があるなか、上級生の授業の見学などの工夫は、生徒の意識を高める良い機会になったのではないかと感じる。学年が上がることの自覚とともに、同学年の中でも切磋琢磨し高め合っている集団づくりが大切だと感じる。</p> <p>○ 令和8年度開校に向けては各学校との連携が強くなり、みられ教職員の方が子ども達の為にしっかり準備して頂いているのが分かります。今後もさらなる連携を続けて頂ければと思う。</p> <p>○ 保護者からの評価が、概ねどの項目も積極的肯定評価Aが上昇していることは、素晴らしいことだと思う。</p> <p>● ユニバーサルデザインを意識した授業の研究を進めるとあるが、具体的な構想はどのようなものと考えられているのかを分かりやすく伝えてほしい。</p> <p>● 学力の2極化が進む中、従来の授業では改善が難しいのではないかと感じる。思い切った授業内容の見直し(生徒が面白いと感じる課題の開発など)や習熟度別授業などさらなる工夫が必要ではないでしょうか。</p> <p>☆ ユニバーサルデザインの授業づくりや支援教育は、個々の特性が多様で大変だとは思いますが、特性に合わせた対応をするためにタブレットを補完的に活用するなどできたらよいと思う。</p> <p>☆ 令和8年度の義務教育学校開校に向けてより一層の小中学校の連携をとりスムーズに移行できる様にして頂きたい。</p> <p>☆ タブレット使用に関しては授業においては有意義に活用されている。家庭へ持ち帰って欠席時、不登校で学校に行きにくい生徒にもタブレットを活用した授業を受けられるように考えて頂きたい。</p>

## 2 高めあう学校

計 画	<p><b>1. 一致した方針のもとでのきめ細やかな指導</b></p> <p>①肯定的な子ども観を持ち、学級集団を把握し、生徒の行動の背景を知ることが大切を指導にあたる。</p> <p>②生徒に関する情報を共有し、生徒指導主事と児童生徒支援コーディネーターの連携を中心に、取組みのためのコーディネート機能を充実させる。</p> <p>③不登校を減らし、いじめの早期発見、早期解決をめざす。</p> <p><b>2. 生徒をエンパワーし、いじめを許さない集団づくり</b></p> <p>①いじめを許さない集団づくりをめざす。</p> <p>②部活動の指導では、クラブ活動運営方針のもと、明確な目標を設定し、指導を行う。</p> <p>③生徒会役員と学校協議会やPTA 役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。</p> <p>④生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。(様々な行事、取組みを通じて)</p>
取 組	<p><b>1の①②③について</b></p> <p>「子どもたちをしっかりと見る」ということを今年度は特に大事にした。子どもの変化を敏感に感じ取れるよう、全教職員で子どもたちを見守る体制作り、そして情報交換を密にした。</p> <p>まず、今年度も毎朝の出欠状況が全教職員で把握できるように、職員室にホワイトボードを設置して一覧表を作成し、そこに学年団教師で記入をするようにした。それを見て、連絡なしに朝登校できていない生徒がいたら、すぐに担任、学年団教師で家庭に連絡を入れるようにした。遅刻傾向のある生徒や休みがちの生徒への対応を迅速に行うことができた。</p> <p>定期的(原則毎週月曜日5時間目)に生徒指導連絡会(管理職、学年生指担当、養護教諭、児童生徒支援Co、栄養教諭、スクールカウンセラーで構成)を開催し、情報交換並びに支援策等を協議した。また、必要に応じてケース会議を開催し、外部機関(町福祉課、デイサービス事業所、池田子ども家庭センター、警察など)とも連携し対応にあたったケースもあった。多角的な視点から、そして外部機関の力を借りることで、子どもたちにとってよりよい生活環境の構築につなげた。</p> <p>今年度は不登校傾向の生徒数が増えた。一つはコロナ影響もあると考えている。コロナ禍を過ごす中で、知らず知らずの内に精神的なストレス等を抱え、2年、3年と経過する中で、登校することへの不安や生活習慣の乱れなどを生じ、登校しにくくなった生徒もいたと思われる。また学習に対する不安、人間関係等で悩み、教室に向かうエネルギーが不足する生徒もいた。これまで以上にカウンセリングルーム(別室)登校の生徒も増え、その部屋の運営にはかなり苦勞をした。今後もそのような傾向の生徒たちは増えてくるかもしれない。これまで以上にきめ細やかに生徒の状況把握に努め、早期の対応を心がけるとともに、カウンセリングルーム(別室)での対応にも工夫と配慮をしていきたい。今後の大きな課題である。</p> <p><b>2の①について</b></p> <p>今年度も道徳・総合・学活などを通じて、体験を重視し、生徒が主体的に取り組めるように行事等を工夫し、生徒の自己有用感が高まるようにした。行事等では、実施にあたり生徒から実行委員を募り、生徒のアイデアを取り入れたり、運営を任せたりするなどした。生徒同士が互いに理解し、協力し合う活動を通じ、互いの良さなどを知り合うことにつながり、学級や学年の絆を深めることができた。また、生徒の状況把握については、学期ごとに生徒にアンケートを実施し、いじめだけでなく体罰等についても把握に努めた。</p> <p><b>2の②について</b></p> <p>年度初めに、キャブ会議を経て学校の方針を伝え、それをもとに各クラブミーティングを行い、活動目標や方針を明確にした。今年度はコロナに関する制限がかなり緩くなったこともあり、昨年度に比べると活動時間は増えたと思われる。働き方改革が言われる中、教職員の負担は増やしたくないが、部活動で</p>



	<p>たいと考えている。生徒の自尊感情の高揚に向けて、行事等の生徒が活躍する場面を増やしたり、生徒の自主性を伸ばすために生徒同士の話し合いを増やしたりするなど、生徒の自己有用感を高め、自信につながるようなことは意識的に増やしている。その成果も出てきている。しかし、キャリア教育を推進したり、教科の授業などで、普段の学びの中でも生徒が自己有用感を感じ、未来に向けて展望が持てるような授業づくりをしたりなど、まだまだ改善の余地があるので、次年度は注力していきたい。</p> <p>保護者の方の評価が高まったのには、積極的な情報発信も好影響として出ていると感じる。今後も保護者の方への発信は注力していきたい。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 学校生活ならではの合唱発表会や体育大会などの行事を工夫しながらできたことは実り多いものだったと思う。クラスの仲間が心を通わせ、支え合いながら学校へ楽しく通える生徒が増えることに通じると思う。</p> <p>○ 出欠状況を全ての先生方で把握できるシステムは、素晴らしいと思う。ちょっとした工夫で生徒一人ひとりに対して迅速に対応できたことを大いに評価したい。</p> <p>○ 生徒会役員さんとの交流については、こちらもびっくりするような考え方をっていて、私たち親も勉強になった。</p> <p>○ 運動会では開会式後に大雨に見舞われましたが生徒たちの一致団結した姿が見られ感動した。一人ひとりがみんなの事を考え、思いやりの心で過ごしているのかなと思い、行事を行う大切さを身に染みて感じた。</p> <p>● 学校へ行くのが楽しくなるように、もっと魅力ある授業を創意工夫して頂きたい。</p> <p>☆ 行事等で生徒から実行委員を募り、生徒のアイデアを取り入れたり、運営を任せたりするなど、生徒の主体性を重視した取組みは、素晴らしいと思う。吉中生の力は、毎年の行事や委員会活動・クラブ活動などを通じて脈々と伝わる伝統に裏打ちされたものであり、その力を十分発揮できるような仕掛けを考えてほしい。</p> <p>☆ 不登校が増える傾向は全国的な問題ですが、吉川中学校での教職員の対応は手厚いものだと思う。学校だけでなく、家庭環境、思春期における体の変化等の色々な要因が重なりあっての不登校だと思われるので問題解決はなかなか難しいですが、さらなる工夫をお願いしたい。</p>

### 3 地域に愛され、前向きで安心できる学校

計 画	<p><b>1. 安全で規律ある学校づくり</b></p> <p>①学習規律、生活規律など基本的な生活習慣の確立に力を入れる。 ②防犯訓練や避難訓練など、複数回実施し、非常時の対応力育成に取り組む。</p> <p><b>2. 学ぶ意欲を引き出す学習環境</b></p> <p>○掲示物や作品展示の工夫をしたり、生徒や保護者の要望等を十分に受け止めたりして、生徒の学ぶ意欲を引き出す努力を続ける。</p> <p><b>3. 危機管理の徹底（報告・連絡・相談・点検の徹底）</b></p> <p>①コンプライアンスの徹底を図る ②学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。</p> <p><b>4. 誇りと責任感に根ざす学校風土の醸成</b></p> <p>○教職員間で学校に対する誇りと取組みに対する責任感、使命感を共有していく</p> <p><b>5. 可能性を伸ばす幅広い教育活動</b></p> <p>○行事、部活動、委員会活動や地域と連携した取組みなどを通し、生徒の可能性を伸ばしていく。</p>
取 組	<p><b>1について</b></p> <p>学習規律については、学習内容をしっかり見つけるための基盤として、年度当初から各学級そして各授業で、子どもたちに指導をしてきた。授業における生徒の姿勢は概ねよかったと思うが、1年生は2学期に入って少し授業における集中に欠ける点があったので、3年生の授業を見学するという機会も作り、3年生から主体的に授業に取り組む姿勢を学んだ。生活規律なども概ねできていた。</p> <p>避難訓練は春と秋に、地震を想定したものと火災を想定したものの2回を実施することができた。また犯罪防止教室や薬物乱用防止教室などは計画通り実施できたが、防犯訓練と呼べるものは実施できなかった。</p> <p><b>2について</b></p> <p>今年度はできる限り生徒の授業での作品や委員会のポスターなどを意識的に数多く展示することを心がけた。生徒会の企画で掲示物をつくったり、また生徒会から地域に発信する掲示板も校門に設置したりした。これらは間違いなく生徒の学ぶ意欲の高揚につながったし、生徒の頑張りを地域や保護者にも発信できた。</p> <p><b>3について</b></p> <p>教育公務員としてのコンプライアンスについては、年度初めに「めざす教員像」を提示するとともに、定期的に職員会議等で指導した。特に、今年度はコロナ対応について安全安心な学校運営を第1優先とし、マスクの着用、手指の消毒・手洗いの徹底、3密の回避、さらには、私生活においても教員としての意識を持って感染予防に努めることを強く求めた。学校では、毎朝の健康状態の把握のため、検温と体調管理表への記入を求めた。</p> <p>また、今年度は「笑顔で会える学校 吉川中学校ガイドライン」を作成し、教職員に配布し、内容の確認を行った。昨年度中に全教職員で作成した学校目標や今年度の取り組むべきことや課題などを、4月1日の職員会議で全教職員で共有し、意思統一を図ってスタートした。</p> <p>そして、校内の安全点検を年3回教員による全校一斉点検と日常の清掃時間での点検を行い、工事等の必要な危険箇所については、教育委員会に依頼した。</p> <p>「学校だより」「学年だより」「学級通信」「進路通信」「保健だより」「図書だより」「食育だより」などを発行した。今年度もコロナ対応のために町内小中学校が足並みをそろえて行事等で対応しなければならぬことなどもあったので、教育委員会に要望し、町内で共通する変更点（式典の規模、コロナによる出席停止等）については、教育委員会より文書を出していただいた。また、保護者の方にも協力を求めるため、学校のコロナ対策などを周知するように努めた。</p> <p>今年度も情報の積極的な発信に努めるため、「学校だより」を月2回の発行に増やし、加えてホームページでの発信にも注力した。特に2学期からは「校長室から（校長ブログ）」をスタートさせ、学校での生徒たちの様子を頻りに発信するようにした。</p> <p><b>4, 5について</b></p>

	<p>教職員間で学校に対する誇りと取組みに対する責任感、使命感を共有していくということについては、校長より職員会議や職員朝会など、機会があるときに幾度となく話をした。また、学年の実態交流や、行事等での振り返りなどを通じて、教職員間で互いの取組みなどを交流し、教職員が自己有用感を感じ、あわせて責任感や使命感を強くするよう心がけた。</p> <p>行事、部活動、委員会活動など、生徒が失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジするような雰囲気づくりにも今年度は注力した。できる限り生徒で考え議論させ、ことを進めるようにした。中でも今年度はコロナによる制限が減った中、地域に出ていく活動にも力を入れた。特に11月に実施した「中学生によるスマホ教室」は大好評で、地域の声にこたえて2月には2度目も実施した。1回目は新聞に、そして2回目はテレビでも取り上げられ、生徒の自尊感情の高揚につながった。生徒の自信につながり、学校全体が活気づき、そして豊能町の活性化にもつながる大変有意義な取組みとなった。</p>
<p>評 価</p>	<p>【生徒の評価】</p> <p>「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(60.4% 54.4% <b>51.6%</b>)「命、社会のルール、人権の大切さについて学んでいる」(70.3% 67.1% <b>66.8%</b>)であった。安全で規律ある学校をめざしている中で、これらの数値はやや下がっている。生徒会で「校則の見直し」を進め出している。これからは、生徒たちに自らの問題として「学校生活をよりよくするために考える」機会を増やしていき、安全に対する意識を高め、規律ある行動を求めていきたい。</p> <p>「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」(67.8% 70.8% <b>61.2%</b>)「『学校だより』等を読んでいる」(29.0% 26.6% <b>25.7%</b>)であった。情報発信の量は決して昨年度より減ったわけではなくホームページ等での発信を加えると増やしているくらいである。それであるのにこの結果ということは、生徒が情報に目をやっていたり、関心が向いていなかったりするからだと考える。昨年度の反省を踏まえて、読み手の側に立ってのたよりの作成なども心掛けてはいるのだが、努力が足りないということだろう。生徒がもう少し興味を持つ情報発信の方法について考える必要がある。</p> <p>「給食は適切に実施されている」(43.9% 42.9% <b>47.3%</b>)であった。給食については、生徒会と連携し、パン給食を増やしてほしいなどの意見を給食会社に伝えメニューの工夫を行ったり、栄養士を中心に食育推進に継続して取り組んできた成果により評価も高くなった。今年度もコロナの影響により生徒会による給食工場の見学は実施できなかったが、給食業者との交流会を実施し、また栄養士と生徒会が協力して、食育の動画を作成し、各学級で視聴した。それらの成果も出ていると思う。</p> <p>【保護者の評価】</p> <p>「学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(40.4% 40.6% <b>48.0%</b>)「命、社会のルール、人権の大切さについて指導している」(40.0% 32.6% <b>47.5%</b>)と、保護者の方々には安全で規律のある学校をめざしての取組みを肯定的に見てくださっている割合が高い。</p> <p>「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」(38.4% 41.0% <b>40.9%</b>)「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」(59.4% 60.1% <b>59.1%</b>)「子どもを通じて情報は保護者に届いている」(44.2% 53.5% <b>49.0%</b>)であった。昨年度と比べやや低い感はあるが、まずまずの結果であった。生徒に比べて保護者の方のほうか評価が高めなのは、やはり学校からの情報には関心を持っていただいているからだと感謝したい。これからもしっかり情報を発信していきたい。</p> <p>「給食は適切に実施されている」(30.7% 39.8% <b>44.2%</b>)と、かなり評価が上がった昨年度に比べさらに評価が上がった。以前多かった給食への不満などのマイナスイメージは、ここ2年でもかなり払しょくされてきたと喜ぶたい。「施設・設備の安全管理を適切に行っている」(27.3% 30.0% <b>27.2%</b>)については、施設の老朽化に伴い、安全性を心配されている保護者も少なくない。現在の校舎もあと1年となるが、安全面については点検を怠らず、しっかり保っていきたい。</p> <p>「生徒の健康管理に努めようとしている」(46.8% 28.0% <b>45.2%</b>)であった。今年度もコロナ対応のため健康観察で体温チェックやチェックシートの記入などいねいに行った。保健だよりや学校だより等でも感染対策に関する情報を積極的に発信したこともあり、昨年度に比べかなり評価が上がった。</p> <p>【総括的】</p> <p>安全で規律ある学校づくりを進めているが、生徒にはその実感があまりないように感じる。これは安</p>

	<p>全やルールについて、自分事として考える機会が少ないからだと思われる。「自分の命は自分で守る」「自分たちで生活をよりよいものにしていく」という意識を持たせるように、今進めている校則の見直しをはじめ、生徒自身に考えさせる機会を増やしていかなばならないと考える。</p> <p>学校からの情報発信は、今後はその質にこだわり、生徒にも関心を持ってもらえる工夫をしていきたい。概ね保護者には情報発信については肯定的に受け止めてもらっている。安全で規律ある学校に向けた取組みも、情報発信により肯定的に感じてもらっているという感もある。今後もさらなる進化をめざしたい。</p> <p>その他、給食や生徒の健康管理等の取組みについても保護者には肯定的に受け止めてもらっていると感じている。これからも情報発信を積極的に行い、保護者の方に協力をお願いしながら、生徒たちのために進めていきたい。</p> <p>地域に愛される学校をめざし、今後は積極的に地域にも働きかけをしていきたい。本校生徒に、地域に貢献できるような活動をさせたい。今年度実施した「中学生のスマホ教室」は、マスコミにも取り上げられ、実際に地域の方々に元気を与え、そして町の活性化にも大きく貢献した。このような取組みを継続発展させていき、生徒たちの自尊感情の高揚につなげ、生徒だけでなく、教職員にも誇りと責任感を植え付けていきたいと考えている。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 給食についての肯定的な評価が年々増えてきているのが良い。生徒たちの前向きな取組みや教育委員会や学校の指導も成果を上げているのだと感じる。食に対する家庭での教育の比重が多いと思うので、PTAの協力が欠かせないと思う。</p> <p>○ 学校内やご家庭での生活についてはよくわからないが、登下校の様子をみる限り、規律正しく、明るく楽しそうに見受けられる。一言のあいさつだけですぐ、こちらにも元気をもらえて感謝です。</p> <p>○ スマホ教室の取組みについても、生徒たちが率先して、準備・広報をされており、これからも続けて欲しい。地域の高齢者との接点を持つという意味では素晴らしい取組みだと思う。</p> <p>○ 「スマホ教室」の取組みは、地域とのつながりの意識を強く持つことができた。生徒とともに教職員の姿も肯定的に見てもらえる良い機会となった。学校長が積極的に学校外に向けて発信されたことで実ったものと実感する。地域の中での吉中生、中学生ならではの新鮮な輝きで地域を活気づけてくれることに期待したい。</p> <p>○ 学校からの情報（校長先生ブログ）は学校の様子が良く分かり、いい取組みだと思いました。子ども達が貰ってくる手紙も出すのが遅かったりするので、ホームページで見られるのは保護者としてもありがたい。</p> <p>● 給食に関して、年を追うごとに改善されて生徒たちも満足していると思いますが、温かい食事というのを子ども達は望んでいるように思われる。また、アレルギー対応の生徒の食材とそうでない生徒の食材には大きな差があり、その辺りは改善の必要があるのかなと思う。</p> <p>☆ 「学校だより」の情報発信はHPへの掲載もあり保護者には届いているようだが、生徒はあまり読んでいないようである。紙面に『生徒のみなさんへ・生徒たちへ』などのコーナーを設け、その時々メッセージを発信するのはどうでしょうか。</p> <p>☆ 先日行われたスマホ教室の様に学校から積極的な発信をして、もっと開かれた学校作りをして欲しい。</p> <p>☆ 危機管理を徹底しながら学校情報を自治会回覧などで発信したら、地域の理解がより深まるのではないのでしょうか。</p>

## 4 ともに育つ地域・校種間連携

計 画	<p><b>1. 多様な資源を生かした地域連携と地域に信頼される学校づくり</b></p> <p>①地域等のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。</p> <p>②公開授業を実施する。</p> <p>③学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。</p> <p><b>2. 明確な目的を持った校種間連携</b></p> <p>○令和8年度の義務教育学校開校を見据え、小中連携を積極的に進めていく。</p>
取 組	<p>1の①について</p> <p>今年度も、3密を回避する観点で、地域の方にお世話になることを積極的には進められなかった。しかし、2年生の職場体験学習に代わり、地域の事業所の方数名にお越しいただき、生徒にお話をしていただくなど、形を変えるなどの工夫をして学習を進めた。またクラブ活動では、昨年度よりコロナの規制も緩まって、外部コーチにかなりの時間で指導をいただいた部活もあった。その他、地域のボランティアの方に中庭の花植えを手伝っていただいたり、学校敷地内の草刈りをお願いしたりなど、地域の方に協力いただける場面ではお願いした。また「ふれあいのつどい」は今年度も実施できなかったが、それにかわる「ふれあい作品展」の取組みを、福祉団体等と行えたのは有意義であった。中でも今年度は作品展の一角で「中学生によるスマホ教室」を開催し、多くの高齢者の方々がお越しくださり、中学生の指導の下、スマホの操作等を取得してくださった。多くの方に喜んでいただき、生徒たちの自己有用感がたいへん高まる取組みとなった。</p> <p>1の②について</p> <p>10月末に公開授業を実施し、多くの保護者にお越しいただいた。また、12月2日のSEの公開授業では、町内はもちろんのこと、遠くは寝屋川市や豊中市などからも多くの先生方に参観をいただいた。</p> <p>1の③について</p> <p>学校協議会を開催し、学校の情報を伝え、ご意見を頂いた。また、10月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接、生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。</p> <p>2について</p> <p>毎月のように開催された学校運営協議会（開校準備委員会）では、令和8年開校予定の義務教育学校に向けて、今年度は標準服や校名の検討などを、それぞれの検討部会も含めて熱心に議論を進めた。また、西地区の4校（本校、東ときわ台小、光風台小、吉川小）の教職員で、自主合同研修会を2度開催した。互いの学校の取組みや児童生徒の現状の交流ができ、何より互いの名前や顔を知り合うことができ、4校の距離が縮まったことが、今後に向けた一番の収穫となった。</p>
評 価	<p>【生徒の評価】</p> <p>「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになってきている」（71.4% 68.0% <b>60.0%</b>）であった。少し下降傾向にある。特に合唱発表会や体育大会など、大活躍をした3年生の数値が思ったより低めであった。間違いなく、昨年度に比べ合唱発表会もでき、体育大会等も併せて素晴らしいパフォーマンスを発揮した3年生であったので、充実感や達成感は大きなものがあつたはずである。しかし、そうは言うものの今年度も体育大会などは規模を縮小して行ったし、3年の間かなりの我慢をしてきている3年生にしてみれば、最後の年にもっと行事で頑張りたかったという思いがあつたからではないかと推測する。</p> <p>地域との連携や校種間連携に関する成果指標となるようなアンケート項目はないが、例えば「中学生によるスマホ教室」などは、地域貢献の意味も含めて、地域とつながり、生徒たちがやりがいを感じた取組みになったと感じている。第2回目を2月中旬に実施するが、1回目に比べ多くの子もた</p>

	<p>ちがスタッフとして参加してくれた。テレビに取り上げていただくこともあり、地域の方々にも吉中生の頑張りを広く知っていただけたと思う。このことで学校全体が元気づき、生徒たちが大きな自信を得てほしいと願っている。</p> <p>【保護者の評価】</p> <p>「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」(59.7% 33.0% <b>61.4%</b>) と、昨年度に比べかなり高い評価をいただいた。コロナによる規制が幾分緩くなったこともあるが、合唱発表会や体育大会など、行事での子どもたちの躍動する姿を見ていただき、このような評価をいただいたと思う。本当に子どもたちは制限のある中でも工夫し、行事では自主的に楽しむことができていたと思う。保護者の方々にも子どもたちの頑張りを発信できた成果でもあるとみている。</p> <p>「地域人材の活用に努めている」(37.4% 56.3% <b>40.3%</b>)であった。今年度もコロナ禍で地域の方との連携は限られていたが、地域の方々に花壇の整備をしていただいたり、草刈りをしていただいたりと、できるところで地域の方々からお力をお借りした。部活動でも、いくつかのクラブが外部コーチにお世話になっている。部活動での外部コーチの活用については、学校だより等でもあまり発信できていなかった。次年度は地域人材の活用についても発信を増やしたい。</p> <p>【総括的】</p> <p>今年度もコロナの影響で行事の規模縮小をせざるを得なかった部分もあったが、その中でも子どもたちが工夫を凝らして頑張り、活躍する姿を実際に見ていただく機会が多く持てたと思う。そして通信やHPでも発信することができ、保護者の方々にも知っていただくことができた。それは子どもたちの自尊感情の高揚にもつながったとも思う。</p> <p>地域との連携もできる部分で進めているが、これについては情報発信不足を感じている。「中学生によるスマホ教室」をはじめ、次年度も積極的に地域と連携して、子どもたちの学びを豊かにし、そして地域や町に貢献できる活動をしていきたい。その情報発信もさらに積極的に進め、吉川中学校が「地域の誇り」と思ってもらえるようにしていきたい。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 「スマホ教室」は、素晴らしい取り組みですね。アプリをダウンロードして貰った高齢の方が「頼もしい中学生だ」と喜んでおられた。生徒の皆さんもさぞ達成感を味わったことと思う。</p> <p>☆ コロナ感染症の心配がなくなれば、PTAも地域も一体となって草刈り作業などの活動をしていてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>令和5年度が、この校舎で生活する最後の吉中生となる。地域の中心で活動する吉中生と教職員のプライドを持った姿に期待したい。</p> <p>☆ 地域力をもっと積極的な活用をして欲しい。履正社・シートスとの連携による部活動、水泳の指導などをお願いしてはどうか。</p> <p>学校がどのような協力を必要としているかを地域に知らせてください。</p> <p>☆ 学校協議会に参加して、地域の方の意見であったり、生徒たちとの交流、先生たちの取り組み、保護者の意見等の多方面からの意見を聞くことができとても良かったと思う。負担になるかもしれないが、PTA会長だけではなく、あと数人のPTA会員が参加するのもいいかもしれない。</p> <p>☆ 令和8年度の義務教育学校開校に向けての部会ですが、色々な意見を出し合って、決めることはいいのですが、自分の子どもが携わらない保護者にとっては複雑な気持ちでもあったと思う。特に中学のPTA役員になると3年生の保護者が多くなるので、検討部会立ち上げの時にもう少し説明があっても良かったのかなと思う。</p> <p>☆ 小中連携を進める中で、義務教育学校における4・3・2制にすることによるメリットを考えることが必要である。どうしてもトップダウンで決められたことなので、現場としては考えにくいと思われるが、この機会をとらえて、新しいことへのチャレンジも必要になってきているのではないかな。</p>

## 5 双方向な家庭とのかかわり

計 画	<p><b>1. 家庭とのパートナーシップの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の家庭背景をできる限り把握することに努める。</li> <li>○保護者の生活や子どもへの思いを知り、信頼関係をつくっていく。</li> <li>○保護者の抱えるしんどさや、悩みに耳を傾ける。</li> <li>○保護者とともに子どもを育てるという姿勢を持つ。</li> </ul> <p><b>2. 学習習慣を促す働きかけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校からの便りや懇談などの機会を生かし、家庭での学習習慣形成に向けて保護者の協力をお願いしていく。また生徒の携帯電話やスマホなどの使い方についても、保護者とともに考えていく。</li> </ul>
取 組	<p><b>1について</b></p> <p>今年度もコロナの影響で、年度当初に計画していた1年生の家庭訪問や、2、3年生の懇談が実施できなかった。家庭訪問などは、生徒の家庭背景を知る意味でとても大きな意味を持つ行事なのだが、それがかなわなかったのは残念であった。その分、学校での生徒の様子や出来事など、何かあれば家庭に連絡を入れ、必要に応じて家庭訪問も行った。しかし、コロナ禍と言われるようになって3年ほどが過ぎるが、このコロナの影響もあり、日常の家庭訪問の頻度も減っているように感じる。ベテラン教員の割合が減り、経験の浅い教員が増える中、かつての教員が家庭訪問を重要視していた風潮が少し薄れているのは事実である。職員会議等で、家庭訪問を含め、家庭と密に連携することの重要性を校長等から説いている。</p> <p>家庭との連携、保護者の思いを受け止めるということでは、今年度は支援教育関係の取組みで連携を密にした。今年度になり、急きょ国の方針が出て、大阪府の支援教育のあり方を大幅に見直すこととなった。本町も教育委員会から見直しの指示があり、次年度の学びの場の見直しに、かなりの時間を割いて取り組んだ。町教委の保護者向け説明会にとどまらず、学校独自の説明会を開催し、支援学級在籍並びに通級指導を受ける生徒の保護者とは、個々の面談を実施し、必要に応じて2度3度と面談を繰り返した。大きな不安を抱かれていた家庭には、校長自らも面談を行った。生徒本人の思いに加え、保護者の思いを丁寧に受け止め、次年度の学びの場を決めていく取組みを行った。</p> <p><b>2について</b></p> <p>家庭での学習習慣形成に向けては、学校だよりや学年、学級だより等でも保護者への協力を呼びかけ、また学年懇談や個人懇談時に協力をお願いしてきた。家庭での学習習慣は個人差があるが、全般的には家庭学習の時間も比較的長く、保護者の方がその環境をつくってくださっていると感謝している。今後も連携しながら進めていきたい。しかし、気になるのは携帯電話やスマホを触っている時間が非常に長い点である。これも個人差があるが、家庭学習に悪影響を及ぼしているのは事実である。そのようなこともあり、今年度に保護者と連携してこの課題に向き合う取組み等を考えていたが、学校だよりやPTAの会合等での協力の呼びかけにとどまり、具体的には進められなかった。</p> <p>「中学生によるスマホ教室」の開催で、中学生のスマホを扱う実態は以前に比べてつかめたのは今後につながる収穫としたい。子どもたちのスマホやゲームに費やす時間の多い生活習慣を改善していくことは、町全体における今後の大きな課題にも位置付けられているので、次年度はPTAと協力するなど、また生徒たち自身に使い方について考えさせるなどの取組みを実行していきたい。</p>
評	<p><b>【生徒の評価・保護者の評価】</b></p> <p>家庭との連携に関して、生徒の評価を見るためのアンケート項目等がないので、生徒の評価という点では記述できないが、保護者に対するアンケートでは、「家庭では子どもとふれあう時間をつくろうとしている」(53.7% 59.1% <b>51.0%</b>)「家庭では進路について相談することを大切にしている。」(51.6% 55.7%) <b>52.0%</b>であった。昨年度より少し下がっているが、今年度も肯定(A)評価が50%を超える高い値であった。本校は、家庭での子どもとのふれあいの時間は大切に考えてくださっている保護者の方が多いようで、たいへんうれしく感じている。保護者の方が前向きに子どもたちと接して下さっている土壌があるだけに、家庭との連携には今後も注力し、学校での課題等も保護者とともに克服できるように積極的に情報発信もしていきたいと考える。</p>

<p>価</p>	<p>【総括的】</p> <p>家庭との連携を図りたいということで、まずは学校から家庭への発信をしなければならないと考え、各種学校からのたよりに加えて、今年度はHPの活用など、発信には注力してきた。そのことについて、保護者からは概ね好評価をいただいた。今後もさらなる努力を続けていき、保護者の方々に学校の様子をより知っていただく努力をしていきたい。学校での子どもたちの様子（特に頑張っている様子）や学校が取り組んでいることを、まずは知ってもらうことから家庭との連携が始まると考える。そして知ってもらえれば、協力も得やすいと考える。</p> <p>本校の保護者の方々は、学校自己診断のアンケート結果などを見ている、学校の取組みには概ね理解を示してくださっており、前向きに協力もしてくださっている。ただ、表には出しておられないだけで本音の部分では、心配や不安に思っておられること、学校に対しても要望したいことなど、多く抱えておられるように感じる。それだけに、学校としては、今の状況に安堵せず、保護者の思いをもっと受け止めようとする姿勢が必要と感じている。経験の浅い教職員が増える中、家庭への働きかけが以前に比べると弱まっているように感じ、今後の課題と感じている。学校が家庭に寄り添うという姿勢を、これまで以上に見せていく必要があると考えている。</p> <p>学習習慣という点でも、子どもたちがスマホやゲームに注ぐ時間が増え、学習習慣に悪影響が出ている子どもも多い。これは本校だけでなく、豊能町全体の課題でもある。この課題克服に向けては、これから家庭との連携が鍵になると考える。今年度進めることができなかった、スマホの使い方についての家庭との連携による取組み、加えて生徒会を中心に子どもたち自身に使い方を考えさせる取組みを、次年度以降は進めていきたいと考えている。</p>
<p>学 校 協 議 会  委 員 評 価</p>	<p>○ 家庭との連携は十分に出来ていると思います。</p> <p>○ 自由記述の意見欄に書かれていることが両極端であり、記入された方のエネルギーが伝わってくる。それぞれが我が子のことだけになるのは仕方ないことだとは思いますが、それだけに教員との信頼関係のあり方が文面に表れている。教員の生徒と保護者との関係がどれだけ大切か、日ごろの態度や対話での指導の重みを実感する。</p> <p>● 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の質問紙結果から、土日を除いて月曜から金曜までの間で、「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という問いに、吉川中学校3年生の5月時点での数字で、「2時間以上」と答えた生徒が、51.6%である。この中には、「4時間以上」と答えている生徒が14.5%もいる。クラブ活動をしてから下校したと考えると、家庭では、ゲームしかしないのである。何とかしないといけない。</p> <p>☆ 子どもたちがスマホやゲームに注ぐ時間が増えて、学習環境に良くない影響を与えていることについては、小学校と連携した取組みや、生徒会を中心に子どもたち自身に使い方を考えさせる取組みが重要であると考え。</p> <p>☆ スマートフォンの問題に関して、今年度、豊能町PTA連絡協議会のイベントとして、知っておきたいネットのリスクの講題で篠原嘉一先生に講演をして頂いた。参加してみると大変、勉強になりましたし、子ども達のスマホ依存の問題、リスクが良く分かり、スマホ使用を考えさせられる内容でした。希望者のみでしたので、参加人数はそこまで多くなかったのですが、来年度は、全校生徒、保護者も含め、学校主催の講演会を開催してもらえれば家庭、子ども達に使い方を考えてもらえるいい機会になるのではないかと思います。</p> <p>☆ 家庭とのパートナーシップの推進においては、緊急メールの活用をもう少し柔軟に考えればよいのではないかと。学校便りや校長ブログなど非常に充実したにもかかわらず、アクセス数があまり変わらないとのことであったが、ホームページにアップした日に、「このような記事をアップした。」などメールしてみてもどうか。また、「全国学力・学習状況調査結果」や定期テストの日程・内容などもメールで今日アップしましたなどとお知らせしたらどうか。</p>